

以下の手順は特に断りのない場合は通信方式としてSLⅡを選んだ場合の手順です。旧SLを選んだ場合には〔 〕内の数値に読み替えて作業を行ってください。

手動アドレス設定 SLⅡ/旧SL共通〔 〕内は旧SL用の数値

- ①室外機のアドレス設定
- 電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室外アドレスが登録されます。
室外No.スイッチを00～31〔旧SLの場合00～47〕の範囲で設定してください。
ネットワーク上の他の室外No.と重複しないように設定してください。
- ②室内機のアドレス設定
- 電源投入前に次のとおり設定してください。電源投入することで室内アドレスが登録されます。
室内No.スイッチを000～127〔旧SLの場合00～47〕の範囲で設定してください。
室外No.スイッチは対応する室外No.を**00～31〔旧SLの場合00～47〕**の範囲で設定してください。
ネットワーク上の他の室内No.と重複しないように設定してください。
- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。
- ※同一ネットワーク内にSLⅡ未対応機がある場合、SW5-5をONにして通信方式を旧SLとしてください。旧SLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

自動アドレス設定 SLⅡ/旧SL共通〔 〕内は旧SL用の数値

SLⅡでは従来の冷暖系統が1系統の場合の自動アドレス設定に加え、複数の冷暖系統を信号線で接続する場合でも室内機の自動アドレス設定が可能です。ただし、配線方法等、条件がありますので本説明書をよく読んで実施願います。

- (1)冷暖系統が1系統の場合（SLⅡ/旧SL共通〔 〕内は旧SL用の数値）
- ①室外機のアドレス設定
- 電源投入前に次のとおり設定してください。
室外No.スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。
- ②室内機のアドレス設定
- 電源投入前に次のとおり設定してください。
室内No.スイッチが出荷時の000〔旧SLの場合49〕に設定されていることを確認してください。
室外No.スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。
- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。(2)の手順のように7セグで設定を行う必要はありません。
- ④室外機の7セグで表示される室内機台数と実際に冷暖配管が接続されている室内機の台数が一致するか確認してください。

- (2)冷暖系統が複数の場合（SLⅡのみ可能。旧SLの場合、手動設定でアドレス設定してください。）
- 冷暖系統を接続する信号線が室外機間で接続されており、通信方式としてSLⅡを選択した場合のみ実施できます。）

操作手順（各室外機で実施願います）

〔STEP1〕（電源投入前実施内容）

- ①室外機のアドレス設定
- 電源投入前に次のとおり設定してください。
室外No.スイッチを00～31の範囲で設定してください。ネットワーク上の他の室外No.と重複しないように設定してください。
- ②室内機のアドレス設定
- 電源投入前に次のとおり設定してください。
室内No.スイッチが出荷時の000に設定されていることを確認してください。
室外No.スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。
- ③自系統を分離
- 各室外機の**ネットワークコネクタ（白色2P）**を外してください。（接続したまま電源投入されると誤設定となります。）

〔STEP2〕（電源投入と自動アドレス設定）

- ④室外機室内機電源投入
- 室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。
- ⑤各室外機の7セグのP31で“1”を選択して確定をし、自動アドレス開始を入力してください。
- ⑥開始アドレスと室内機接続台数の入力
- 各室外機の7セグのP32で室内機の開始アドレスを入力してください。
- ⑦開始アドレスを設定すると接続台数入力表示に戻ります。
- 各室外機の7セグで室内機接続台数を入力してください。各室外機ごとの接続台数を入力願います。（7セグのP33で入力できます。）
- 接続室内機が入力されたら7セグ表示は「AUX」となり点滅します。

〔STEP3〕（自動アドレス完了確認）

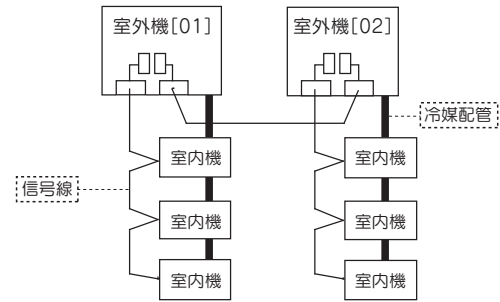
- ⑧室内機アドレス決定
- 室内機アドレスが確定したら7セグが「AUE」となり点滅します。このときエラーがあれば「A〇〇」表示となります。
- 各室外機が表示を確認願います
- 室内機接続台数により確定するまで**10分程度**かかる場合があります。

〔STEP4〕（ネットワーク確定設定）

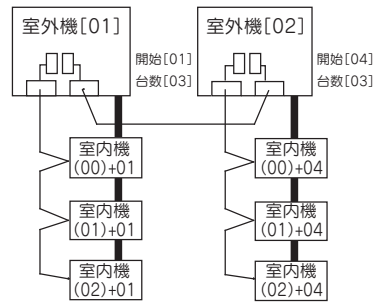
- ⑨ネットワーク接続
- 各室外機ごとに「AUE」表示を確認したら③で外した**ネットワークコネクタを接続**してください。
- ⑩ネットワーク権性設定
- ネットワークコネクタの接続**を確認後、ネットワークの権性設定のため、**任意の室外機（1台のみ）**より7セグのP34で“1”を選択して確定をしてください。
- ⑪設定完了確認
- ネットワークが確定したら各室外機の7セグに「End」を表示します。「End」表示は7セグ操作もしくは3分経過後消灯します。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機 (室内/室外 No.SW)	②内000 /外 49 (出荷時)	—	—	—
室外機(室外 No.SW)	①01.02 (例)	—	—	—
ネットワークコネクタ	③外す	—	—	⑨接続(各室外機)
自動アドレス開始設定	—	⑤各室外で開始設定セット	—	—
開始アドレス設定	—	⑥外01:「01」(例) 外02:「04」(例)	—	—
接続台数設定	—	⑦外01:「03」(例) 外02:「03」(例)	—	—
権性設定	—	—	—	⑩任意室外機から7セグP34セット
7セグ表示	—	⑦「AUX」(点滅)	⑧「AUE」(点滅) エラー時は「A〇〇」表示	⑪「End」

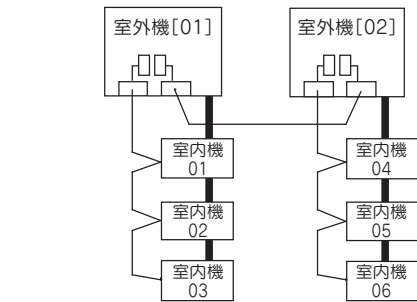
〔STEP1〕



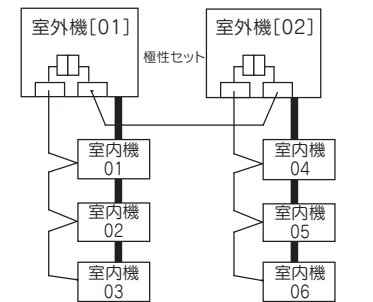
〔STEP2〕



〔STEP3〕



〔STEP4〕



- ・同一冷暖系統内のアドレス設定は室外機の認識した順番に設定されますので、必ずしも図のように室外機から近い順番に付番されるわけではありません。
- ・必ず全ての室内機の電源が入っていることを確認してください。
- ・設定完了後リモコンの点検スイッチを押すと確定した室内機アドレスNo.と室外機アドレスNo.が表示されます。
- ・1つのリモコンで複数台制御する場合でも自動アドレス設定は可能です。
- ・1度登録したアドレスは電源を切ってもマイコンに記憶されています。
- ・自動アドレス後アドレスを変更したい場合は、リモコンで行う「アドレス変更」もしくは室内機アドレススイッチで行う「手動設定」により変更が可能です。変更する場合はネットワーク上の他のアドレスNo.と重複しないように設定してください。
- ・自動アドレスが終了するまでは集中制御機器の電源は投入しないでください。
- ・アドレス設定後は必ず試運転を実施し、全ての室内機、室外機が正常に運転できることを確認し各室内機のアドレスを確認してください。

アドレス変更（SLⅡのみ可能）

「アドレス変更」とは「**自動アドレス設定**」で既に設定した室内ユニットアドレスをリモコンで変更したい場合に使用します。従ってリモコンによるアドレス変更ができる条件は次の通りとなります。

	室内機アドレス設定		室外機アドレス設定
	室内No.SW	室外No.SW	室外No.SW
1 冷暖系統自動アドレス	000	49	49
複数冷暖系統自動アドレス	000	49	00～31

この条件以外のアドレス設定の場合に「アドレス変更▼」を選択した時点でリモコンに下記表示を3秒間します。
ドット液晶表示：「操作無効です」（3秒間点灯）

操作手順

ecoタッチリモコンを接続の場合には、リモコンに同梱しております据付工事説明書の据付設定をご覧ください。

(1)リモコンに接続している室内機が1台の場合

項 目	操 作	表 示
1 アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
	②◆を押す毎に表示が切り替わります。	「アドレス変更▼」 ⇔「親室内アドレス▲」
	③「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。 これでアドレス変更モードとなり現在の設定アドレスを表示し、室内No.設定表示となります。	「内001 外01」(1秒) →「室内No設定◆」(1秒) →「内 001◆」(点滅)
2 新室内No.の設定	④◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。 ▲スイッチで＋1、▼スイッチで－1づつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇔「内 001◆」 ⇔「内 002◆」 ⇔「内 003◆」 ⇔「内 127▼」
	⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内アドレスNo.を確定します。	「内 002」(2秒)
3 新室外No.の設定	⑥確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo.設定表示となります。 初期表示は現在の設定アドレスを表示します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No設定◆」(1秒) →「外 01◆」(点滅)
	⑦◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。 ▲スイッチで＋1、▼スイッチで－1づつ表示が変化します。	「外 00▲」 ⇔「外 01◆」 ⇔「外 02◆」 ⇔「外 03◆」 ⇔「外 31▼」
	⑧アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します。	「内002 外02」(2秒点灯) →「設定完了」(2秒点灯) →停止状態に戻る

(2)リモコンに接続している室内機が複数台の場合

接続している室内機が複数台の場合は配線はそのままで夫々のアドレスを変更することができます。

項 目	操 作	表 示
1 アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
	②◆を押す毎に表示が切り替わります。	「アドレス変更▼」 ⇔「親室内アドレス▲」
	③「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。 リモコンに接続している室内機のうち最も若い番号を表示します。	「室内ユニット選択」(1秒) →「内 001 外01▲」(点滅)
2 変更する室内機を選択	④◆スイッチによりリモコンに接続している室内機と、それに接続している室外機の番号が順に表示されます。	「内001外 01▲」 ⇔「内002 外 01◆」 ⇔「内003 外 01◆」 ⇔「内016 外 01▼」
	⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。変更する室内機アドレスNo.を確定し、室内No.設定表示となります。	「室内No設定◆」(1秒) →「内 001◆」(点滅)
3 新室内No.の設定	⑥◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。 ▲スイッチで＋1、▼スイッチで－1づつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇔「内 001◆」 ⇔「内 002◆」 ⇔「内 003◆」 ⇔「内 127▼」
	⑦アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内No.を確定します。	「内 002」(2秒)
4 新室外No.の設定	⑧確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo.設定表示となります。 初期表示は現在の設定アドレスを表示します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No設定◆」(1秒) →「外 01◆」(点滅)
	⑨◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。 ▲スイッチで＋1、▼スイッチで－1づつ表示が変化します。	「外 00▲」 ⇔「外 01◆」 ⇔「外 02◆」 ⇔「外 03◆」 ⇔「外 31▼」
	⑩アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します。	「内002 外02」(2秒点灯) →「次設定選択◆」(1秒点灯) →「室内機選択▼」(点灯)
	⑪引き続きアドレス変更を実施したい場合 ⑫に戻ります。	「◆で選択」(1秒) →「設定完了」(2～10秒点灯)
	⑬終了したい場合1（変更したアドレスを反映する場合） ⑭の状態▼スイッチを押し「終了▲」を選択してください。 アドレス変更が終了した場合は「終了▲」でセットスイッチを押して下さい。設定を送信している間、「設定完了」の表示がでます。その後リモコン表示が停止状態に変わります。	「終了▲」 →「設定完了」(2～10秒点灯) →停止状態
5 終了	⑬終了したい場合2（変更したアドレスを反映しない場合） 設定の途中で「運転/停止」スイッチを押してください。 本モードを強制終了し停止状態となります。 それまでに変更したアドレス設定は反映されません。	「運転/停止」 →強制終了

- ◆スイッチはを0.75秒以上押しつづけることで0.25秒毎に表示を連続して1づつ切替えます。
- ＊操作途中でリセットスイッチを押すと直前のセットスイッチ操作前の表示に戻ります。
- ＊本モードの途中で、室内No.を変更しても、「室内機選択▼」で表示される室内No.は本制御に入る前に記憶している室内No.を順に表示します。「設定完了」となった時点で、室内No.が確定します。

ご注意 ・集中制御機器はアドレス決定後、電源を入れてください。 ・電源を入れる順番を間違えますとアドレスを認識しない場合があります。

PSC012D059F

7－2. 制御の切換

室外機の制御内容は、下記のとおり基板上のディップスイッチと7セグ上のP〇〇にて切換えることができます。
7セグ上のP〇〇切換時は、SW8(7セグ表示アップ：1位)、SW9(7セグ表示アップ：10位)及びSW7(データ書込／決定)長押しにて設定することができます。

制 御 切 換 方 法		制 御 切 換 内 容	
基板上 SW設定	7セグ上 P〇〇設定		
SW3-7 を ON*1	外部入力機能割り当てを*2に設定*1	冷暖強制モード (外部入力端子開放の場合冷房、短絡の場合暖房と固定できます)	
SW5-1 を ON + SW5-2 を ON	－	冷房試運転	
SW5-1 を ON + SW5-2 を OFF	－	暖房試運転	
室外機の液操作弁を開し、下記に示す順に操作する。 (1)基板上 SW5-2 を ON (2)基板上 SW5-3 を ON (3)基板上 SW5-1 を ON	－	ポンプダウン運転	
SW4-5:OFF、SW4-6:OFF*1 80% (出荷時設定) SW4-5:ON、SW4-6:OFF*1 60% SW4-5:OFF、SW4-6:ON *1 40% SW4-5:ON、SW4-6:ON *1 0%	外部入力機能割り当てを*1に設定*1	外部入力端子に信号を入力するとデマンドモードになります。 (J13短絡時：レベル入力、J13開放時：パルス入力)	
SW5-5	－	通信方式切換 ON：IBSL通信 OFF：SLⅡ	
J13：短絡（出荷時設定）、J13：開放時	－	外部入力切換(CnS1、CnS2のみ) 短絡：レベル入力、開放：パルス入力	
J15：短絡（出荷時設定）、J15：開放時	－	デフロスト切換 短絡：通常デフロスト、開放：強化デフロスト	
－	P01	運転優先切換 0：先押し優先(出荷時) 1：後押し優先	
－	P02	室外ファン防雪制御 0：制御無効(出荷時) 1：制御有効	
－	P03	室外ファン防雪制御 ON時間設定 30秒(出荷時) 10、30～600秒	
－	P04	デマンド率変更値(2段階デマンドor省エネモード制御*2) OFF：無効(出荷時) 000、040、060、080 [%]	
－	P05	静音モード設定 0(出荷時)～3：数値が大きいかほど静音効果大	
－	P06	外部出力(CnZ1)機能割り当て	
－	P07	外部入力(CnS1)機能割り当て	
－	P08	外部入力(CnS2)機能割り当て	
－	P09	外部入力(CnG1)機能割り当て	
－	P10	外部入力(CnG2)機能割り当て	
－	P11～	予備	

※1 外部入力機能割り当て（P07～10）と、SW両方が切り替えられた時に制御が切り換わります。
（例：CnS1を冷暖強制モードの入力に使用する場合P07を2、SW3-7をON、CnS2を冷暖強制モードの入力に使用する場合はP08を2、SW3-7をONする）
※2 省エネモード制御の時は、外部入力端子に信号を入力しなくても能力制限が有効となります。

7セグ上で外部入力機能割り当て（P07～10）を切り換えることで外部入力端子の機能を切り換えることができます。外部入力端子に信号を入力すると下記の機能が有効になります。

外部入力機能割り当ての設定値	外部入力端子短絡時	外部入力端子開放時
0：外部運転入力	許可	禁止
1：デマンド入力	無効	有効
2：冷暖強制入力	暖房	冷房
3：静音モード1*1	有効	無効
4：予備		
5：室外ファン防雪制御入力	有効	無効
6：試運転外部入力1（SW5-1同等）	試運転	通常
7：試運転外部入力（SW5-2同等）	冷房	暖房
8：静音モード2*2	有効	無効
9：2段階デマンド入力	無効	有効
10：A F 定期点検表示	有効	無効
11：A F 異常表示	有効	無効
12：ビルマルチ省エネ制御	有効	無効

※1 外温によって有効／無効を切替える。
※2 外温によらず常に有効。

0：運転出力
1：異常出力
2：コンボON出力
3：ファンON出力
4～9：予備

7セグ上のP06を切り換えることでCnZ1の外部出力機能を切り換えることができます。

7－3. 外部入出力端子仕様

名 称	用 途（工場出荷時）	仕 様	基板側コネクタ
外部入力CnS1	外部運転入力（工場出荷時短絡）	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XAMK-2 (LF) (SN)
外部入力CnS2	デマンド入力（工場出荷時短絡）	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XARK-2 (LF) (SN)
外部入力CnG1	冷暖強制入力（工場出荷時開放）	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XAEK-2 (LF) (SN)
外部入力CnG2	静音モード入力（工場出荷時開放）	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XASK-2 (LF) (SN)
外部出力CnZ1	予備出力（外部出力）	DC12V出力	モレックス 5566-02A-RE
外部出力CnH	運転出力	DC12V出力	モレックス 5266-02A-BU
外部出力CnY	異常出力	DC12V出力	モレックス 5266-02A

8. 試運転・引渡し

8－1. 運転を始める前に

- (1) 電源端子台と設置面を500Vメガーで測って1MΩ以上であることを確認ください。
据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜まることにより、電源端子と接地端子の絶縁抵抗が1MΩ近くまで低下することがあります。
絶縁抵抗が1MΩ以上ある場合は、元電源を入れてクランクケースヒーターを6時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が蒸発しますので絶縁抵抗は上昇します。
- (2) 電源投入前に信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。6-3の抵抗値の目安を参考に配線を確認してください。
- (3) 運転6時間前に必ず電源をONとし、クランクケースヒータに通電してください。圧縮機が故障する原因となります。
クランクケースヒータ通電後、上記時間が経過するか圧縮機内部の温度が上昇しないと圧縮機が運転しない場合があります。（圧縮機保護のため）7セグLEDに「dL〇〇〇〇」を表示されています。クランクケースヒータ通電により圧縮機内部の温度が上昇してから試運転を行ってください。
- (4) 圧縮機底部が暖かくなっていることを確認してください。
- (5) 室外機の操作弁(ガス・液)は必ず全開にしてください。開のまま運転しますと圧縮機が故障する場合があります。
- (6) 全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機電源が入っていない場合、故障の原因になります。

ご注意
試運転前に操作弁(ガス・液)の全開をチェックしてください。閉状態では圧縮機故障の原因になります。

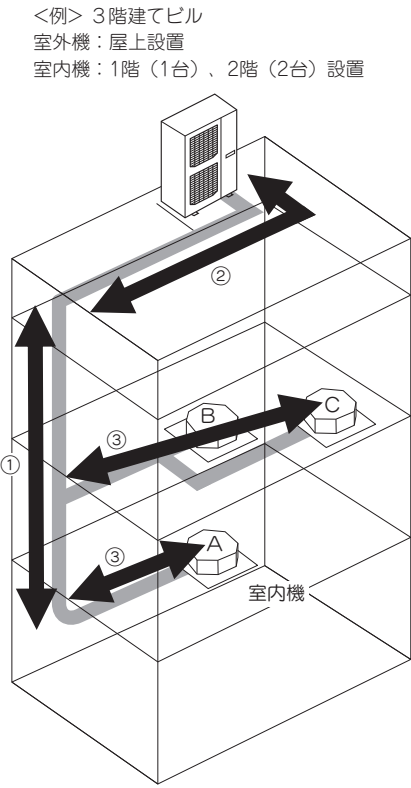
8－2. 冷媒自動充填（リフレッシュキットを用いた配管洗浄を行う場合、手順が異なりますので技術資料を参照ください。）
渡り配管仕様が不明なりリニューアル対応物件に対して、手動で簡易的な計量封入を実施した後に自動で冷媒不足を充填、必要量まで達したら終了する機能です。

重要
・システムが異常停止中の場合は冷媒自動充填を行うことができません。
・室内機合計接続容量が室外機容量の80％未満の場合は冷媒自動充填を行うことができません。
・冷媒自動充填は適用範囲内（外温：10～43℃、室温：10～35℃）で行ってください。適用温度範囲外では、冷媒自動充填を開始しません。
・デマンドモード、省エネモードで0％設定になっている時は冷媒自動充填を開始しません。
・クランクケースヒータを冷媒自動充填実施の6時間前に入れてください。保護制御により冷媒自動充填が作動しない場合があります。

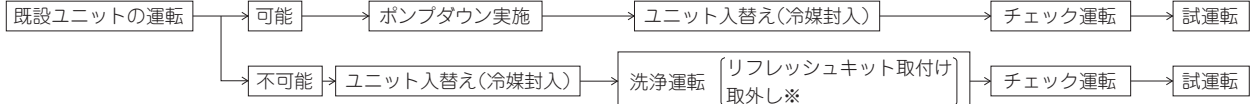
- (1) 簡易冷媒追加封入
自動充填実施前に運転可能なレベルの冷媒を封入するために簡易計算による手動封入を実施してください。
本工程を実施することで、冷媒充填運転を精度向上および時間短縮することが出来ます。
簡易冷媒追加封入量 (kg)＝A、冷媒配管分チャージ量 (kg)＋B、室内外機容量差分チャージ量 (kg)
(0.1kg単位で四捨五入して追加冷媒量を決定してください)
注：計算の結果、簡易冷媒追加封入量が30kgを超える場合には冷媒系統を分けてください。
- (ア) 配管長の推定
配管長を推定し、冷媒配管分チャージ量を計算します。
①縦配管長さの推定
室外機と室内機の高低差を確認してください。(目測または実測)
(例)図のような3階建てビルの場合
(3m/1階分高さ) × 2階+1m (3階～屋上高さ) = 7m
②室外側 横配管長さの推定
室外機を設置している同一階にて、室外機から縦配管までの距離を確認して下さい。
(例)図のような3階建てビルの場合
屋上にて②の配管長さを測定 10m
③室内側 横配管長さ(分岐管)の推定
各階の縦配管部から最も近い室内機までを直線で結び、直線長さを目測または実測により確認してください。
(例)図のような3階建てビルの場合
2階：縦配管～室内機Cまでの直線長さ 8m
1階：縦配管～室内機Aまでの直線長さ 3m
④縦配管および室外側 横配管サイズの確認
既設配管の主管部の液配管径を実測により確認してください。
(縦配管の第一分岐以降も主管と同じ配管サイズと仮定してください)
(例) 10馬力: φ12.7
⑤室内側 横配管サイズの確認
最も近い室内機の液配管径を実測により確認してください。
(例) 2階:室内機C φ6.35
1階:室内機A φ9.52
⑥冷媒配管分チャージ量の決定
A. 冷媒配管分チャージ量(kg)
＝(L3×0.18)＋(L4×0.12)＋(L5×0.059)＋(L6×0.022)
L3: φ15.88の合計の長さ(m)、L4: φ12.7 の合計の長さ(m)
L5: φ 9.52の合計の長さ(m)、L6: φ 6.35の合計の長さ(m)
(小数点2桁目を四捨五入して0.1kg単位で追加冷媒量を決定してください)

冷媒配管サイズ	φ15.88	φ12.7	φ9.52	φ6.35
追加封入量 (kg／m)	0.18	0.12	0.059	0.022

(例)図のような3階建てビルの場合
A＝(7m+10m)×0.12+8m×0.022+3m×0.059＝2.4(kg)



- ・システム通信方式が旧通信方式(IBSL)の場合は、チェック運転を行うことができません。
・複数の冷媒系統で同時にチェック運転を行わないでください。正確なチェックができません。
・チェック運転は適用温度範囲内(外温：0～43℃、室温：10～32℃)で行ってください。適用温度範囲外では、チェック運転を開始しません。
・外気処理ユニットおよび給気処理ユニットはチェックができません。(同一冷媒系統の外気処理ユニットおよび給気処理ユニット以外の室内機についてはチェックできます)
・接続室内機が1台の時はチェックができません。
・デマンドモード、省エネモードで0％設定になっている時はチェックができません。
・クランクケースヒータをチェック運転時の6時間前に入れてください。ドーム下過熱度が15℃より低い場合、保護制御によりチェック運転が作動しない場合があります。
・リフレッシュマルチシリーズの場合は、以下の手順を必ず守ってください。



※故障の原因になるので、必ずリフレッシュキットを取り外した後にチェック運転を行うようにしてください。

- (1) チェック項目
チェック運転では下記について確認できます。
・操作弁が閉じたままになっていないか(操作弁開閉チェック)
・室内外ユニット間の冷媒配管・信号線が適正に接続されているか(アンマッチ チェック)
・室内膨張弁が適正に動作するか(膨張弁故障チェック)
- (2) チェック運転方法
(ア) チェック運転の開始
・SW3-6(配管洗浄モード)、SW3-7(冷暖強制モード)、SW5-1(試運転)、SW5-2(試運転冷房設定)、SW5-3(ポンプダウン運転)
SW5-6、7、8(テストモード)、全てがOFFであることを確認してください。
・次にSW3-5(チェック運転)をOFF→ONにすることでチェック運転を開始します。
・チェック運転を開始してから終了するまでの所要時間は通常15～30分（最長80分）です。
(イ) チェック運転の終了及び結果表示
・チェック運転が終了するとシステムは自動的に停止し、7セグに結果を表示します。
<正常終了>
・7セグに“CHO End”表示が出ます。
・SW3-5をOFFに戻してください。7セグは通常表示に戻ります。
<異常終了>
・7セグにエラー表示が出ます。
・「ここを点検してください」を参照して不適合部分を修正し、SW3-5をOFFに戻してください。
・その後再度2)からチェック運転を行ってください。

コード表示	データ表示	表示内容
H1	最大残り時間	チェック運転準備運転中。最大残り時間（分）を表示する。
H2	最大残り時間	チェック運転中。最大残り時間（分）を表示する。
CHO	End	チェック運転正常終了。


コード表示	データ表示	表示内容	ここを点検してください
CHL	---	操作弁が閉じています。(冷媒回路の一部が閉塞状態。)	・室外機の操作弁が閉じたままになっていませんか。 ・低圧センサは正常ですか。(7セグにて検知圧力を確認できます) ・室内膨張弁コイルのコネクタは接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルが膨張弁本体から外れていますか。 ・室内熱交センサは正常ですか。(センサの抜けはありませんか)
CHU	異常室内No.	冷媒配管・信号線アンマッチ 室内No.表示の室内機に冷媒が循環していません。	・室内外ユニット間の冷媒配管・信号線は適正に接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルのコネクタは接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルが膨張弁本体から外れていますか。 ・室内熱交センサは正常ですか。(センサの抜けはありませんか)
CHJ	異常室内No.	室内No. 表示の室内機の膨張弁が適正に動作していません。	・室内膨張弁コイルのコネクタは接続されていますか。 ・室内膨張弁コイルが膨張弁本体から外れていますか。 ・室内熱交センサは正常ですか。(センサの抜けはありませんか)
CHE	---	チェック運転異常終了。	・室内機又は室外機にエラー表示(E??)が出ていませんか。 ・信号線はゆるみなく接続されていますか。 ・チェック運転中にSWの設定を変更していませんか。
CHE	異常室内No.	チェック運転異常終了。 室内No. 表示の室内機が異常です。	・室内機又は室外機にエラー表示(E??)が出ていませんか。 ・室内No. 表示の室内機が異常です。 ・室内機の電源はONになっていますか。

※上記以外にも異常検知によるエラー表示が出ることがあります。その場合は別途技術資料を参照して点検してください。

※コード表示とデータ表示の内容は4秒間隔で交互に表示されます。

8－4. 試運転

- (1) 室外機からの試運転
室外基板のSW5-1とSW5-2のスイッチにより、外部入力端子のON／OFFにかかわらず室外から試運転ができます。はじめに試運転するモード(冷房／暖房)をお選びください。冷房試運転の場合はSW5-2をONに、暖房試運転の場合はSW5-2をOFFにしてください。(工場出荷時はOFFです。)
次にSW5-1をOFF→ONにすることで、接続されているすべての室内機を運転します。試運転終了後はSW5－1をOFFとしてください。
ご注意：試運転中は、室内機のリモコンからの操作(変更)はできません。(集中管理中の表示がです。)

- (2) 室内側からの冷房試運転方法。リモコンを次の手順で操作してください。
- (ア)冷房試運転の開始
- ① **運転／停止** ボタンを押して運転します。
- ② **運転切替** ボタンにより「冷房」を選択します。
- ③ **試運転** ボタンを3秒以上押します。「項目  で選択」→「 **セット**」で決定」→「冷房試運転▼」と表示が切り換ります。
- ④ 「冷房試運転▼」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
- (イ)冷房試運転解除
- ⑤ **運転／停止** ボタンまたは、温度設定 **△** **▽** ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。
- ご注意：配管工事者の方へ、または電気工事者の方へ
- 試運転終了後、お客様へお引渡しの際に、電装品箱のふた、本体パネルが取り付けであることをもう一度ご確認ください。

8－5. 引き渡し

- 据付、試運転完了後、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともにお客様にて保管頂くようにご依頼ください。
- 長時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないようにご注意ください。暖房や冷房運転をしたいときいつでも運転が可能となります。(クランクケースヒータにより圧縮機底部が暖められているためシーズンインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。)**

JRA GL-14「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」に基づく漏えい点検記録簿の管理と定期的な冷媒漏えい点検のお願い

設置が完了したら、漏えい点検記録簿を作成し所有者に保管の義務を説明してください。

漏えい点検記録簿に気密試験の結果、設置の際の冷媒追加充てん量、漏えい点検の結果を記録してください。

●**本製品を所有されているお客様へ**

製品の性能を維持して頂くために、また、冷媒フロン類を適切に管理していただくために、定期的な冷媒漏えい点検（有償）をお願い致します。

漏えい点検時には、漏えい点検資格者によって「漏えい点検記録簿」、機器を設置した時から廃棄する時までの全ての点検記録が記載されます。本製品の引渡しの際には、本製品の設置工事をされた工事業者様より「漏えい点検記録簿」を受け取り、記載内容の確認と記録簿の管理（管理委託を言む）をお願い致します。なお、詳細は下記のサイトをご覧ください。

●**本製品を設置する工事業者様へ**

本製品をご使用になるお客様には、製品の性能を維持して頂くために、また、冷媒フロン類を適切に管理していただくために、上記ガイドラインに基づいた「漏えい点検記録簿」による定期的な冷媒漏えい点検をお願いしております。

本製品の据付後、所定の漏えい点検作業を行い「漏えい点検記録簿」を作成いただいた後、お客様に点検周期についてご説明いただき、取扱い説明書・据付説明書と共に、お客様で保管いただくように依頼してください。

尚、冷媒漏えい点検には、漏えい点資格が必要です。

漏えい点検資格制度、「漏えい点検記録簿」の用紙については、以下の日設連ホームページをご覧ください。

JRA GL-14は、 <http://www.jraia.or.jp/index.html>

フロン漏えい点検制度は、 <http://www.jarac.or.jp/roei/>

様式 1 冷媒漏えい点検記録簿（汎用版）										年		月		日～		年		月		日		管理番号					
施 設 所 有 者										設備製造者																	
施 設 名 称										系 統 名				設置年月日													
施 設 所 在 地										電 話				使用 機 器						型 式				製品区分			
運 転 管 理 責 任 者										電 話										製 番				設置方式		現地施工	
点 検 事 業 者 会 社 名										責 任 者										用 途		空調用		検知装置		なし	
点 検 事 業 者 所 在 地										電 話				冷媒量 (kg)						合計充填量		合計回収量		合計排出量		排出係数 (%)	
使用冷媒		R-410A		初期充填量 (kg)				点検周期		基準										実績 (月)							
作業年月日		点検理由		充填量 (kg)		回収量 (kg)		監視・検知手段 (最終)		センサー型式		センサー感度		資格者名		資格者登録No.		チェックリストNo.				確認者					

9. サービス時の注意（R410A対応機）

- (1) 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具類を使い分けてください。
- (2) 冷凍機油への吸湿を避けるために、冷媒回路の開放時間は極力短くしてください。(10分以内としてください)
- (3) その他配管施工、気密試験、真空引き、冷媒封入に関しては「冷媒配管」をご覧ください。
- (4) 故障診断
故障診断内容はユニットに貼り付けている配線銘板と技術資料を参照してください。
- (5) フセグLED表示
表示切替スイッチにより、データを表示できます。表示内容はユニットに貼り付けている配線銘板を参照ください。